

I. 開催概要

2016年2月22日(月)15時30分～16時20分 キッズステーション本社会議室

II. 出席者

1. 審議委員 : 7名

鵜沢由美子 (明星大学 人文学科 人間社会学科 准教授)
蛭原英里 (チャイルド・ボディ・セラピスト)
北風祐子 (株式会社電通 マーケティングソリューション局 部長)
菅谷 実 (慶應義塾大学名誉教授)
高芝利仁 (弁護士)
田口成光 (脚本家・放送作家)
大地丙太郎 (アニメ監督)

[50音順;敬称略]

2. 事業者側 : 7名

[経営] 山本 雅 (代表取締役社長CEO)、山中崇之 (取締役COO)
[編成] 押田聖弘 (編成部長兼制作部長)、生駒裕之 (編成部長代理)、
竹内誉人 (制作部長代理)
[事務局] 飯野博之 (経営企画室長兼広報室長)、孫 英活 (広報室長代理)

III. 議事内容

1. 社長挨拶 株式会社キッズステーション 代表取締役社長 山本 雅

本年度最後となる番組審議会にご参集頂き、有り難うございます。前回は新任取締役として参加させて頂きましたが、今回より社長として参加させて頂きます。本日は「アニぱら音楽館」という当社にとって歴史のある人気番組を取り上げます。皆様からは忌憚ないご意見を頂ければと思います。よろしくお願ひ致します。

2. 番組審議 司会進行: 北風委員長

1) 対象番組: 「アニぱら音楽館LIVE A2-SQUARED 2016 Part1」

① 番組説明

- 放送日時: 2月19日午後11:00～ (再放送:2月20日午前3:00～他)
- 主要対象: 大人とアニメファン
- 放送尺 : 30分(HD)
- 作品紹介:

元祖アニソンライブ番組「アニぱら音楽館」と音楽イベント「A-POP PLUS」が融合した新たなアニソン音楽ライブイベントが、1月17日に開催された「LIVE A2-SQUARED 2016 -アニぱら音楽館×A-POP PLUS-」。本イベントから、アニソン業界を牽引する影山ヒロノブさんをはじめとする「アニぱら音楽館」レギュラー陣のソロライブパート他を編集、まとめて放送したものが、「アニぱら音楽館LIVE A2-SQUARED 2016 Part 1」。

②合評： 委：番組審議委員／局：キッズステーション

局：今回審議に取り上げられている「アニぱら音楽館LIVE A2-SQUARED 2016 Part 1」は、「アニぱら音楽館」の特別編になります。通常の「アニぱら音楽館」は、アニメソングや特撮ソングを生バンドの演奏をバックにアーティストが歌うアニソライブ番組です。

本番組は2001年2月から放送を開始し、今年で15周年を迎えました。現在のレギュラーメンバーは、影山ヒロノブさん、遠藤正明さん、angelaのボーカリストatsukoさん、Geroさん、織田かおりさんの5人となります。

テレビ東京系アニメ専門チャンネルであるAT-Xさんでは、「A-POP PLUS」という音楽ライブを主催していますが、当社の「アニぱら音楽館」とAT-Xさんの「A-POP PLUS」の二つを融合したイベントが「LIVE A2-SQUARED 2016」として、1月17日に豊洲PITで開催されました。

本イベントで「アニぱら音楽館」レギュラーメンバーによるソロライブパート他をまとめたものが、今回審議対象の番組となります。

今回審議する番組とは別に90分のスペシャルバージョンも後日放送を予定されており、本日は現時点で放送済みのパート1について、皆様のご意見をお聞かせ頂ければと思います。実際のライブは、全41曲、4時間余りのイベントとなりました。

委：野外と屋内の違いはありますが、以前キッズステーション放送の東日本大震災復興支援として宮城県石巻市で行われた音楽イベントと較べると、映像制作面でかなり進化した印象を受けました。また、製作著作がキッズステーションとなっていますが、これは今後放送以外での二次使用、他の展開も視野に入れて作られたのだと理解しました。

個人的には番組のはじめにカウントダウンが入っており、視覚に訴える効果的な演出で気に入ったのと、多くの観客がペンライトを振っているのが印象に残りました。

局：今回のライブは大手ケーブルテレビの関連会社もライブ実行委員会に名を連ねており、今後、VODサービスへの提供を考えております。

観客が曲に合わせ振っているペンライトは、色が切り替わり、電池式で長時間使えるので、使い捨てタイプに代わり、今は主流となっています。カウントダウン映像はライブにおいても使用した映像となります。

委：今後、音楽ライブイベントの更なる展開、そしてキッズステーションでの放送はあるのでしょうか。

局：次回のライブはまだ具体的には決まっていません。

委：イベント会場の集客キャパはどれくらいでしょうか。オールスタンディングでしょうか。

局： 会場の集客キャパは3,000人ほどです。当日は出演者が50名にのぼり、アニメアイドルの出演者が多くなりました。オールスタンディングの4時間を超えるイベントとなりましたので、疲れたという声も一部にはありました。

委： テンポの早い、ロック調の曲ばかりのようでしたが、ゆっくりとした曲もあったのでしょうか。番組では、歌詞の字幕は出ていませんでしたが、なぜ出ないのでしょうか。

局： ライブでは、アーティストと観客とが一体となり皆で大合唱できるよう、ステージのスクリーン上に歌詞が投影される「オレライブ」のような企画もありました。今回の番組ではスタジオでの収録番組と違い、歌い直し、録り直しもできないライブであることを考慮して、歌詞を出していません。

委： 番組には司会者がいなかったもので、次々と音楽が続き、予備知識がない私には、少し分かりづらかったのですが、影山ヒロノブさんの4曲目の「こころはタマゴ」が心温まる内容の詞で個人的には一番印象に残りました。

局： この曲は、影山ヒロノブさんの91年発表の作品ということで、今の30代半ばの世代が子どもの頃に聴いていた、ぐっとくる名曲ですね。

委： この番組は、大人向けだけなのでしょうか。アニメファン、コアファンにとってはよいものと分かりますが、特に詳しくない、子どもや普通の人にも受け入れられるという工夫があってもよいのではと感じました。

例えば、実際のアニメをスクリーンに映し出すとか、アニメのキャラクターが出て来るとかすれば、より一層楽しめるのではないかと思います。また、それがきっかけで、懐かしのアニメ作品を見てみようという気持ちになるのではないのでしょうか。

一緒に番組を見た母は、小さな子どもは、アーティストが付けているピアスや装飾に目が行くのではないかと話していました。

個人的には、影山ヒロノブさんに「ドラゴンボールZ」OPテーマも歌ってほしかったです。

局： 今回の番組には入っていませんが、実際のライブでは歌っています。

局： 補足して申し上げますと、キッズステーションでは夜は大人向け番組を編成しておりまして、「アニぱら音楽館」は小さな子ども向けではなく、午後11時以降の深夜に放送される大人向けの番組になります。

委： 実際のライブイベントでの観客の年齢層はどうだったのでしょうか。

局： 観客の年齢層は10代～40代と幅広かったと思います。

委： 私達が見たパート1は、少し前の昔の曲ばかりが集まっていたパートになるのでしょうか。

局：決してそういうことはなく、番組のオープニング1曲目は、2015年10月期放送のTVアニメ「ワンパンマン」の主題歌でした。「アニぱら音楽館」レギュラーメンバーの影山ヒロノブさん、遠藤正明さんが参加しているアニソンユニットJAM Projectが歌っているとてもライブ映えする楽曲です。番組構成上、実際のライブでのパフォーマンスの順序とは多少異なっています。

委：15歳の娘と一緒に見ましたが、「ワンパンマン」OP曲を聴いて、娘はこの番組は、つい最近、地上波での放送が終わったばかりと言っていました。娘としては、新しい曲、懐かしい曲もある中、テイストが似かよったものをまとめて放送してほしいと言っていました。影山ヒロノブさんはベテランらしく、トークが面白かったですね。昔の曲には歌詞が字幕で流れるようにしたら、私も含めファンは喜ぶのではないかと思います。

委：アニソンは今では確立されたジャンルですが、一般的なJ-POPや歌謡曲とは違ったよさがあり、別腹的に楽しめます。

ファンの中には、このアーティストでなければ聴かないという人もいれば、何が来ても楽しめるという人もいでしょうし、作品には人それぞれが持つ思いが重なるのだと思います。

地上波で時折放送される懐かしのアニソン番組では、歌が演奏されるバックで、アニメの映像が流れたりしますが、今回この番組を見る層は、予備知識が十分ある視聴者を主に想定しています。勿論、解説とか、映像が入ればよいと思いますが、多くの人は番組を見終わって、やっぱり歌っていいよねと感じたのではないのでしょうか。

委：「アニぱら音楽館」はキッズステーションでかなり前から放送していると思いますが、ここまで続けているのはすごいことだと感じました。ところで、この番組のファンクラブはあるのでしょうか。

局：ファンクラブというものはありませんが、ニコニコ動画でこの番組だけを配信しているチャンネルがあります。番組には多くのファンが付いていることは確かです。

委：「アニぱら音楽館」にはすごくコアなファンが付いているのでしょうかね。予備知識がないファン以外にも付いていけるような工夫があると更によくなるかもしれませんね。

局：そういうこともあるかもしれません。

「アニぱら音楽館」は、通常の収録でもスタジオで生バンド演奏しているということもあり、他局が同様の番組を同様の手法でやろうとしても、なかなか続きません。

今回のイベントについて、お客様から頂いた色々な反響を見ると、「神ライブ」との評価を頂いたり、このメンバー、ラインアップではもう二度と見られないというような書き込みも数多く見受けられました。たくさんの方々喜んで頂き、制作サイドとしては嬉しい限りです。

- 委：よく若い人たちと一緒にカラオケに行くと、その中の誰か1人がアニソンを歌い出すと、他の人も続いて、どんどんアニソンを歌い出しますよね。
- 局：そうですね。今、10代～20代の若者が歌う曲のベスト10にランクインしている楽曲のほとんどがアニソン、ボーカロイド曲です。
- 局：アニソンは、カラオケボックスのようなクローズドの環境で親しい友人らの間で、気兼ねなく楽しむのに適したものだということでしょう。
- 委：ファンは最初、アニメ自体を見ることを楽しみ、放送が終わっても、今度はアニソンを聴いて、歌って楽しんでいるのでしょうか。
- 局：昔と違って今の若い人は、アニソン、J-POPという色眼鏡なしで、よいものはよいと判断しているようです。
- 委：私の様なおじさん達は、「ガッチャマン」、「宇宙戦艦ヤマト」なんかが好きですね。
- 委：ところで、今回のイベントは、他社と協業ということですが、どのように役割分担されたのでしょうか。
- 局：ライブ自体の制作とプロモーションはライブ実行委員会に参加する各社が共同で行っています。当社がイベントを収録し、番組を制作した関係で、番組自体の製作著作は当社ということになっています。
- 局：経営側から見ると、番組作りにお金を掛けてやるからには、収益につなげなければなりません。今回は初めての協業ということもあり、興行的に手探りの部分はありました。安定した収益事業にするには、プロモーションなどに改善の余地があるかもしれません。
- 局：今回のイベントは、番組内告知と、Web中心に、HP、Twitter、Facebookを使い、イベント名の訴求には最も腐心しました。
- 委：ところで、「アニぱら音楽館」は海外でも知られているというか、人気はあるのでしょうか。
- 局：はい。「アニぱら音楽館」は米国に海外番販をしており、アジアでも番組を購入したいという要望が出ています。海外では、番販された番組が現地語に吹替えられていますが、国によって主題歌自体は日本語のまま放送されている作品も多いので、ここ10年くらいで、主題歌を歌っているアーティストが海外から招かれ日本語で歌い公演するケースが増えています。
- 委：アジアでも人気があるということであれば、旧正月は中国系外国人観光客も多いので、そういった人たちを取り込むことはできないのでしょうか。中国人観光客がアニソンライブを日本で楽しむというようなツアーを旅行代理店と組んで、企画できるかもしれません。
- 局：可能性はあると思います。地域や世代によって人気のある曲も違いますので、そうしたアニソンライ

ブを企画する際は、ニーズを見極める必要があるかもしれません。

局：皆さんより大変貴重なご意見を頂けたかと思えます。それでは、これもちまして、2015年度第4回番組審議会を終了致します。1年間どうも有り難うございました。

3.その他事項

- 2016年度の番組審議会については、決定次第連絡いたします。

以 上